

嶺東 たけがき
 表三 ひこさ
 倭一流 やまとのいちりゅう
 蕨編

芳川春濤校閱
 岡本起泉編輯
 揚州周延圖畫

島鮮堂發兌



35
30
25
20



A 489
2

48-8184

坂東彦三倭一流第二編上之巻
 芳川春濤園岡本起泉綴揚洲
 周延画島鮮堂綱島発兌



凡そ世の面白くぬりぬり演劇の三五目と草冊子の初編なるもの
 就中あの冊子の如き素より杯と暗き云訳とせざる可き只
 何事も明らう暇看客のお眼が曇らぬ鏡とあり一面影を
 其まゝに寫し出したる坂東彦三その来歴の節々千ヨツ
 ヒリ艶を附焼双とゆより鈍き記者の筆ちろろを長い見物
 方の欠の千里み不評の基のちゆ少くで話さ築地の善次が
 一龍を殺害をさんび見所も委細御覽お入色何れをハ即ち
 三編でたろふろく

明治十三年六月

岡本起泉題





鳴神五郎兵衛
俠客



五代目
坂東彦三郎
藝子
龍一

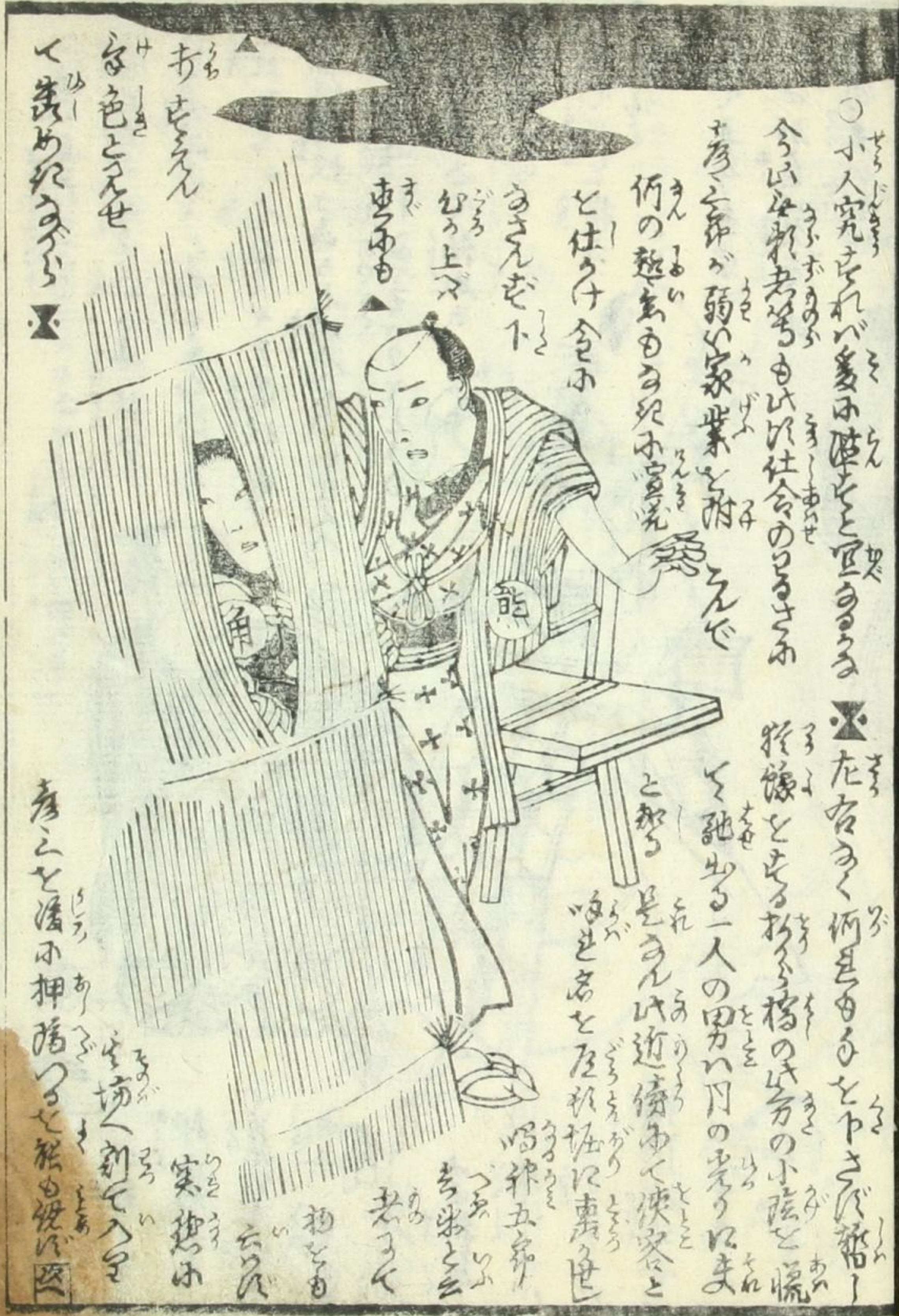
小間物屋
黒木屋熊藏

彦三



後家お艶
 本良屋の

女髪結
 か角



おきん
 色とせ
 くさめ

小人究まれば...
 今いふれおきん...
 何の趣ある...
 とはうけ...
 おきん...
 おきん...

た...
 能...
 恥...
 是...
 鳴...
 物...

考...
 生...
 実...
 云...
 物...

三十一

女村老翁の口をふやア油の何西う
瀬て出と流決るう傍林う

内内ふまてつとめと互向ひさる

新と久く吃致るヤア彼奴トヤア

のい雅奴さぬうとあふういあまへ

睦うふ鳴林親方コリヤとまゆ

とむうのゆく初めあ

おんと振上とま

ひでびと振ま

ら尻のまよとま

へて五年去来が

何とあはハ久きトヤナ

井の表い奴



○吐く付る
と替と

押止め又由

小法とま出る

おへ後

石の結

あて折角

飲代せん

と足まふに

練り破る

込すも

のあ

南の表由

南由四十

面さひく何

の慧とと雲めとま

飯どのドク

干二全体是

あひあ

仔細が

引その仔

細くうのい疾くは

知つてあるう

南々のま子に

早くと悔れと



懐中う何

経りの金と

取出し紙の

包んで久をに

後一振りあひが

是を一杯あう

あられと

押

通るし

何れもあふ

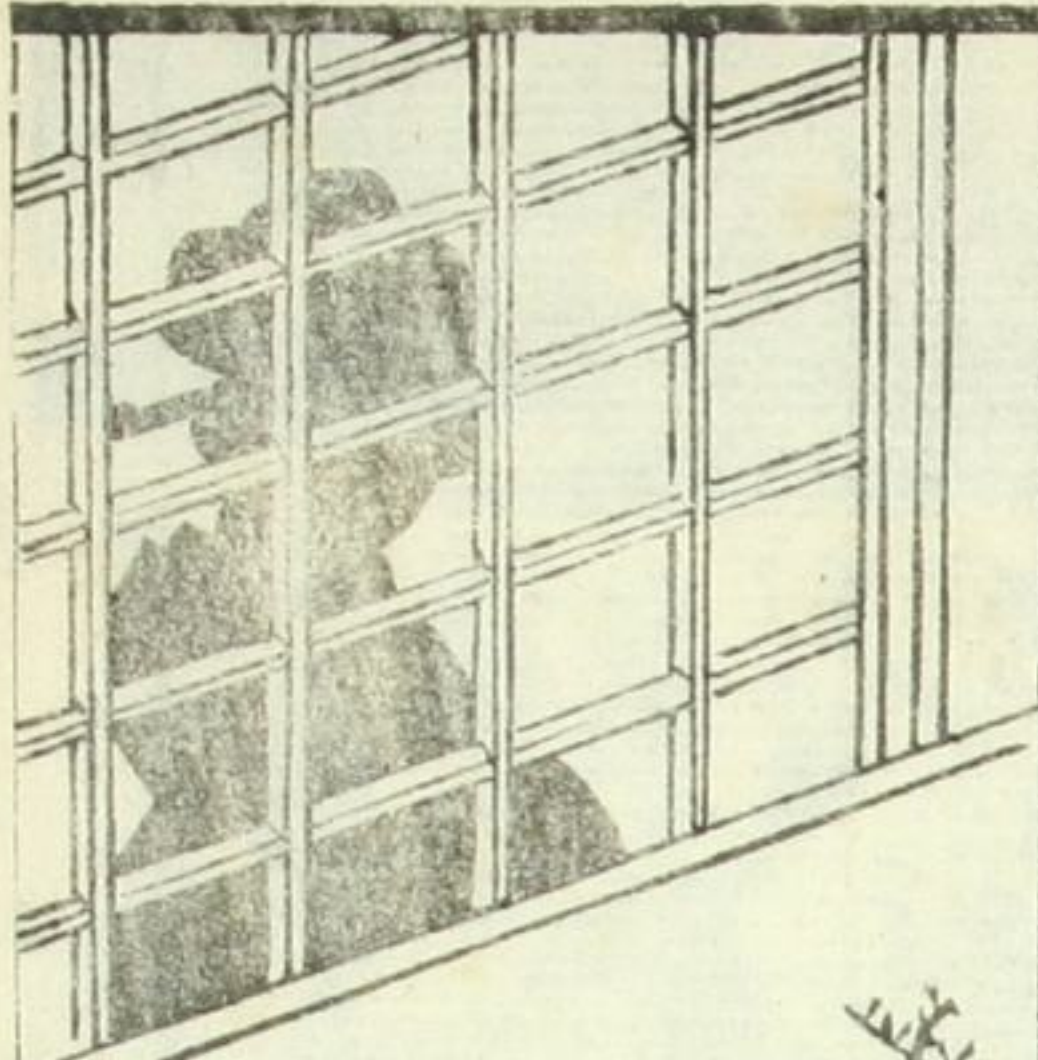
あつと二息

つれあふ

ついでにほろろれがきき
「時小一筋さんおききさん
物對面でもおれと今日あま
さんと一雨あまらばも難儀と

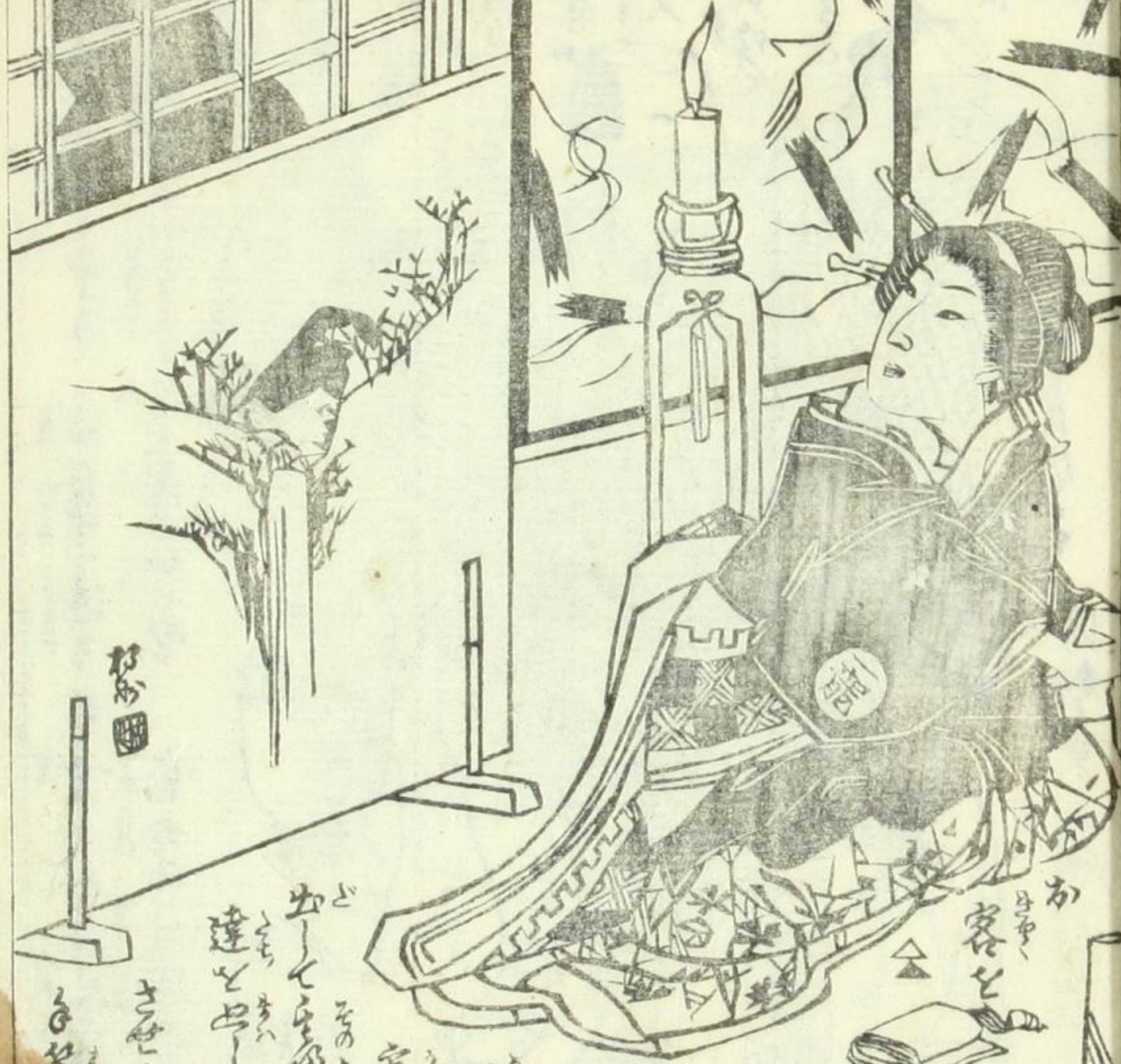
あ
救ふく下ささ
鳴神歌方
内様投やし
今日今日初め

いふ作でう
いん号
由儀切あし
下ささのが
あささす
有難さ
松あい合葉が
ついでにほ



区同うけははくを尾おりき
「そのお殺しいを殺
でいみの実い歳友
えても倦ぬは方
さの芝形が

いそく吐
あふあふの
内お祝言さん
の事とつ換あ
あわの以耳と
あふあ
何れも道こか
宿を
いそく吐
あふあふの
内お祝言さん
の事とつ換あ
あわの以耳と
あふあ
何れも道こか
宿を



かしてを飾り塗おぬい人
達とおして喧嘩と位掛
さき難儀とさせる
お苦のお後放火

お苦

つぎは何年とけりて天降むき
 恋ひのくひも終りくひの終り
 帯一統の何多ひに梅笠の蓋
 と取上げけりてあやう
 さん一杯の酒をすさつと
 新去る六打もあはれけり
 お膝にが茶もあつますの
 ままも何うあなは持ッ
 こころもあつと
 りんとお清一統の
 この例(お)よりい
 さきの本懐(お)い
 ねがぬ合の無(お)い



長平行
 小用(お)と
 と大(お)い
 の中(お)い

今(お)い自(お)り
 取(お)りんと
 あつ(お)る
 自(お)り
 お方(お)が
 引(お)き
 一(お)統
 さ(お)い
 る(お)ひ
 心(お)い
 二(お)人
 我(お)方
 は(お)い



今(お)宵
 笑(お)い
 今(お)宵
 り(お)に
 一(お)統
 一(お)統
 歩(お)い
 ひ(お)の
 甚(お)い
 家(お)い
 一(お)統



島田一郎梅雨日記

芳川春涛撰 三冊 袋入り
岡本起泉終 五編 上巻切

其名高橋 東 京 奇 聞 同

七編 上巻切

白 葛 阿 繁 顛 末 同

三編 上巻切

坂 東 彦 三 倭 一 流 同

三編 上巻切

澤 村 田 之 助 曙 草 紙 同

五編 上巻切

御 所 櫻 梅 松 録

鶴亭秀賀作 二冊 袋入り
十五編 下出板

龜

地本問屋

島鮮堂 網嶋龜吉

浅草瓦町十二番地

芳川春透校閱
岡本起泉編輯



のふ通り候て
 ありとせし置
 狭由ツレとせ
 文と持て来る
 懇意づく心候
 由ある候もの
 と戻して生後
 名合ぶひの
 受ぬと利
 豆とお南
 事ごとくを
 事ごとくを
 へ及右由遠



つけられ
 七徳
 の先
 沖の
 不
 由
 一句
 男
 と
 さげ
 志の
 為と

次へ

つき 義
 さん 小
 かく ね
 由 金
 二十
 やつ
 小
 の
 同

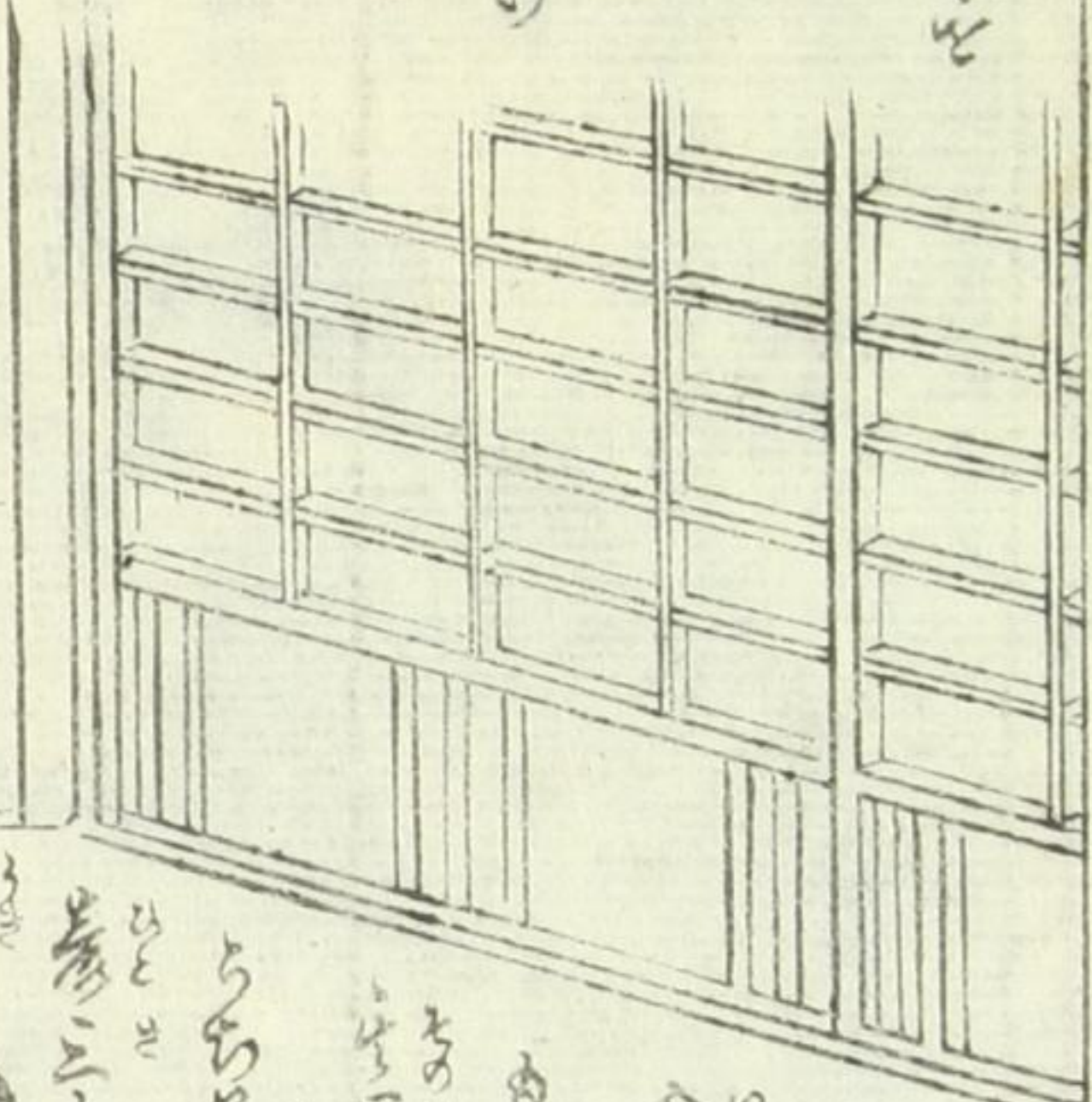


区一
 子
 あり

件と
 海
 衣
 合
 と
 十五
 白

ついでに

あつたあ
そんまう
是で買け
ますと
征文と
美垂
て廻るが
如く出て
ゆくは
あつて一社が
何とかれと
中さうりと



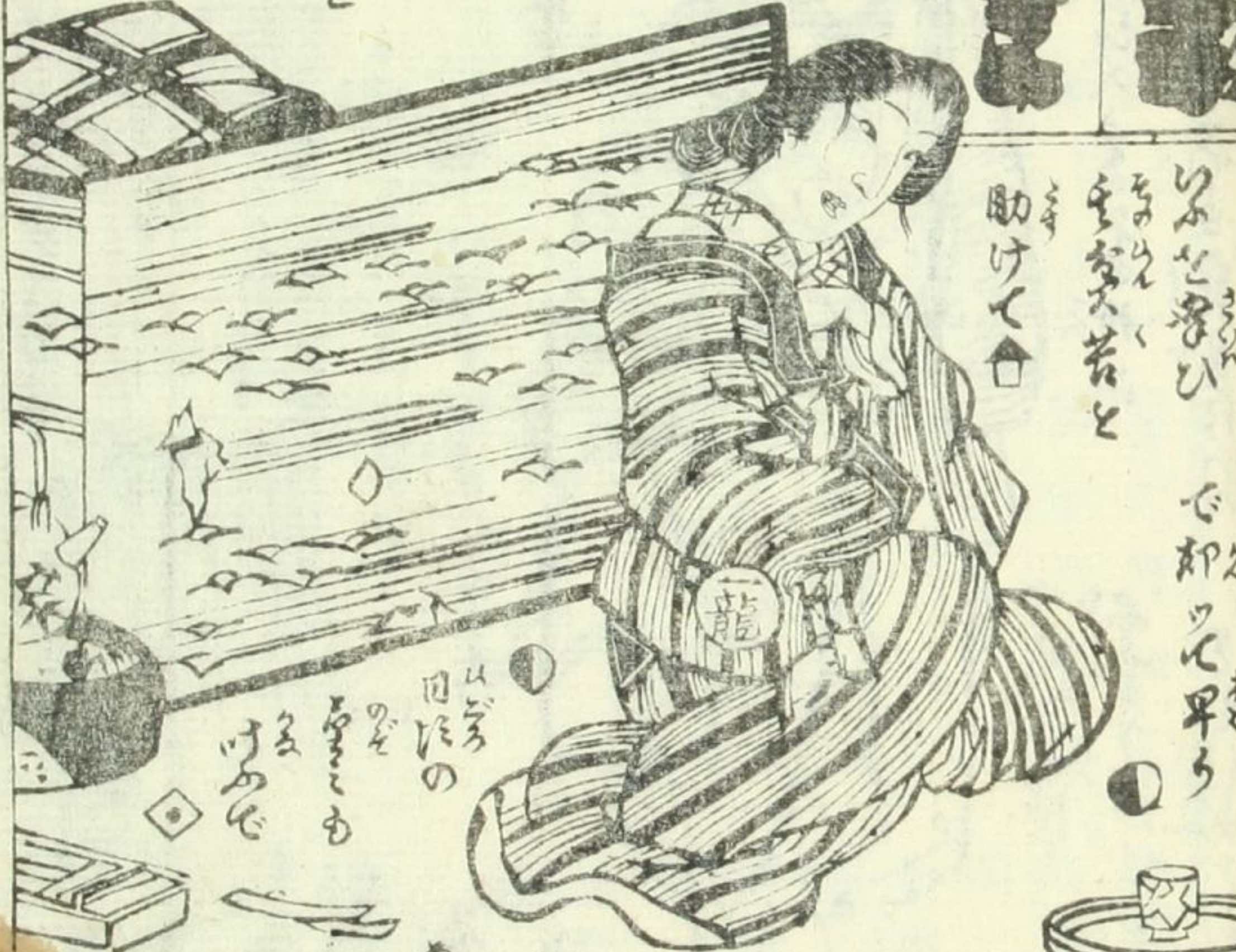
あつたあ
そんまう
是で買け
ますと
征文と
美垂
て廻るが
如く出て
ゆくは
あつて一社が
何とかれと
中さうりと

世間話

□ 是に由被へ
且常んを成せども
今の清ら入る
由たらく
その田を還る
らあ兼て
考ふと
深
ぬの
ま
一社が今
病字心難
してあると
秋と被せん
大と打の假
考へ通下
其の成た
あり
鉄面
皮由
只一人
尊ね
東一
とに一社
為成の
世で假
深立れ
難成め



あつたあ
そんまう
是で買け
ますと
征文と
美垂
て廻るが
如く出て
ゆくは
あつて一社が
何とかれと
中さうりと



あつたあ
そんまう
是で買け
ますと
征文と
美垂
て廻るが
如く出て
ゆくは
あつて一社が
何とかれと
中さうりと



島鮮堂壽梓

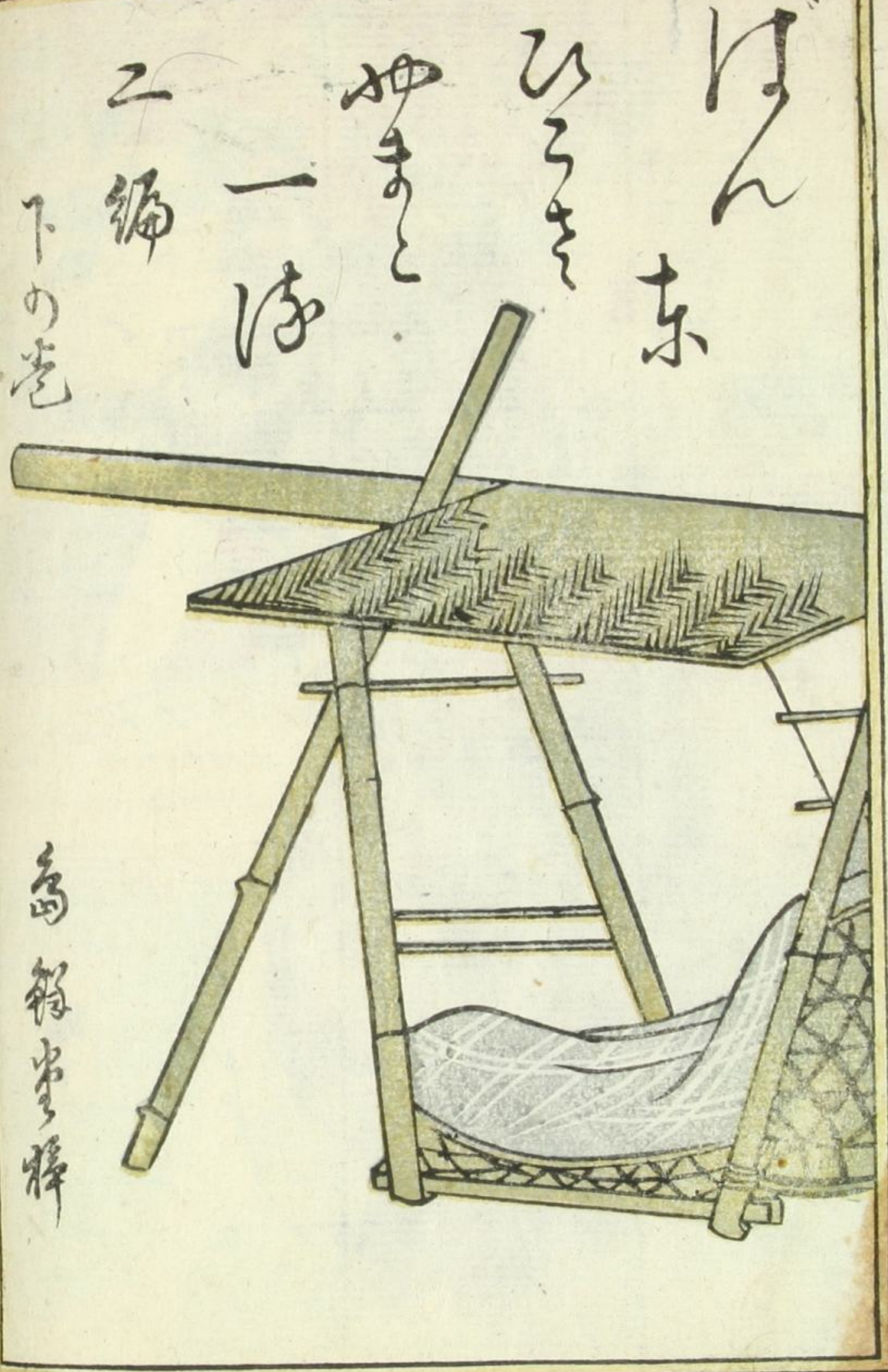
二編下



○青梅や難波のまゝいよるうらまゝのなまぢか
 結わけて料の果する七の角巾も違へんか
 急の園まゝも扱うら掃らぬの者賣の
 お籠り一花の面折れんぞ押りしはへち
 送る事のゆゑもて今日も明日も
 送り内一花方々供ひとりと封の
 手紙とてそへくは取も違へと開き
 えることぞ前田のれと連々折の金ま
 返却する旨と死しおれの一条と付ま
 言々子依の通りや
 誠せしと彦とが月筆
 のみと若しとあるは
 お歌の裏く胸と宿めと又



使下
 せ
 心
 の後
 の海
 と使
 お竹
 候ハ次



ほん
 東
 ひろき
 如ま
 一詩
 二編
 下の巻

高箱糸を料

つき 教りぬい月ふとう難有ハ
 教りぬい月ふとう難有ハ
 事と好まぬえ先方授け大
 家と受けへるのりゆ
 小田原があらへ



お海ぬと
 先以中人と
 ばくばく

お海ぬと
 先以中人と
 ばくばく
 戴はしもまげま
 お断り申しあげ
 次方ぬぬ
 先以中人と
 ばくばく
 戴はしもまげま
 お断り申しあげ
 次方ぬぬ
 先以中人と
 ばくばく



金子の
 外は五支の
 價ある坊う物
 さへ備てありさ
 お頼い葉ふお
 遠るし勝りと
 心は法男六
 後の一子竹と
 か死去せし後
 悪候ふお
 宅にのり
 花うとじ
 一とつ小
 考と希の最
 ぬ又一粒が
 何ははく
 公の金子
 等と個一
 一とつ小



大粒と甲斐のき
 一粒よ金子や揚り
 物と何れせんと腹立
 一さふまはるの物と
 押通しやんとせし
 小使の若ハ早も揚り
 去りしといふ小使の若と
 一粒方一まらしと
 小一不粒合るはゆ
 市とね
 留候う
 その怪小
 受取おほ
 其等のも
 うり迷も叶
 ね意と嬌
 りめり
 其のち
 お頼ハ
 考と希
 芝居と
 見物ゆ

今一服と付に
出た烟草も免南
あめりがちつまる

烟着ふ一枕

ががれく付けける齒の痕の
又あふとの記念ともてあんと
あゝお記留春の番ひもあふ
引あきける人々があはれと惜む
そのうら
は中よ彼の雪林の五節あはれ
えどなご
はくは物々しく送りゆくと
ふにせせくはさく共ふ
押さるや浪華の空と
はめしと



大空へ

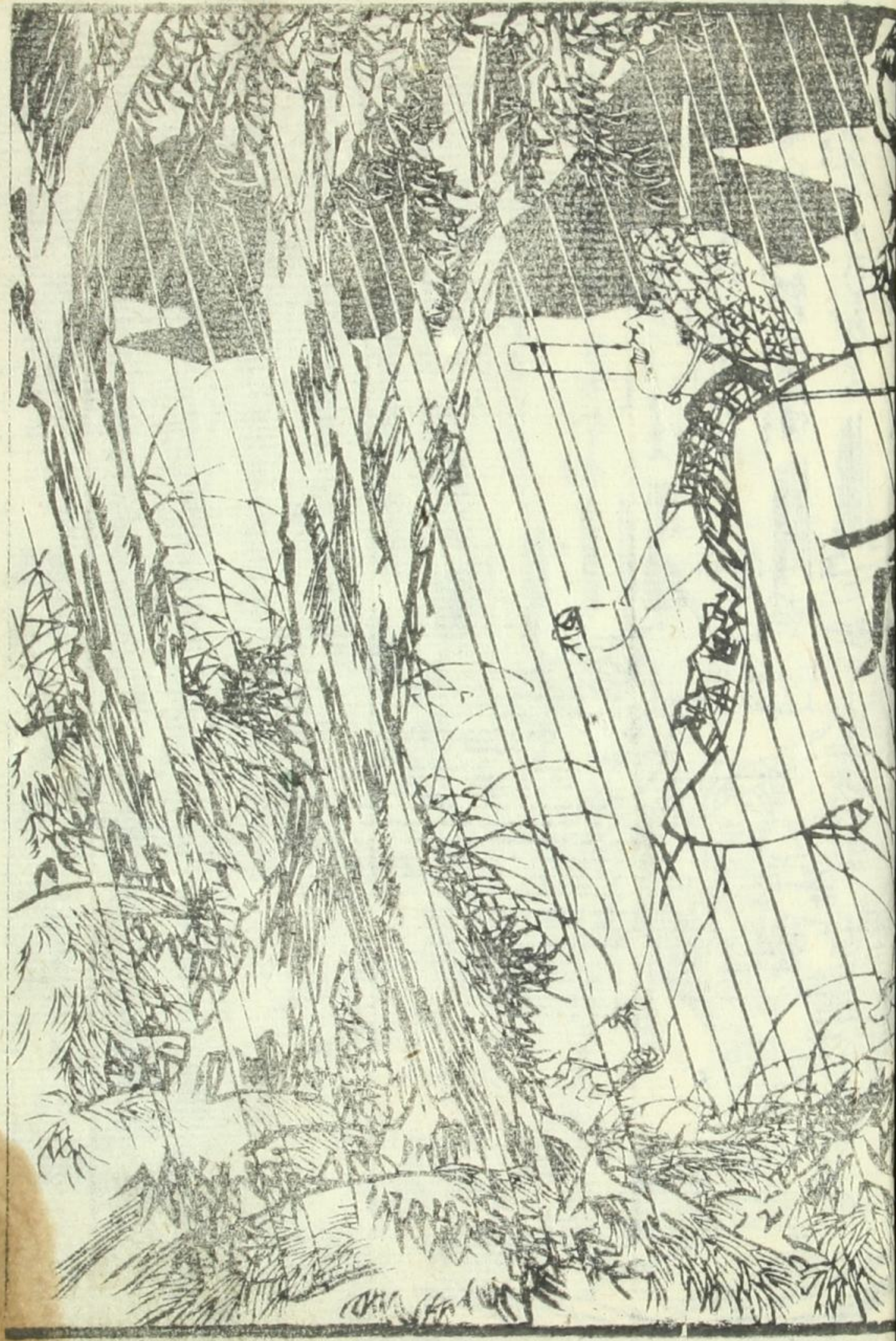


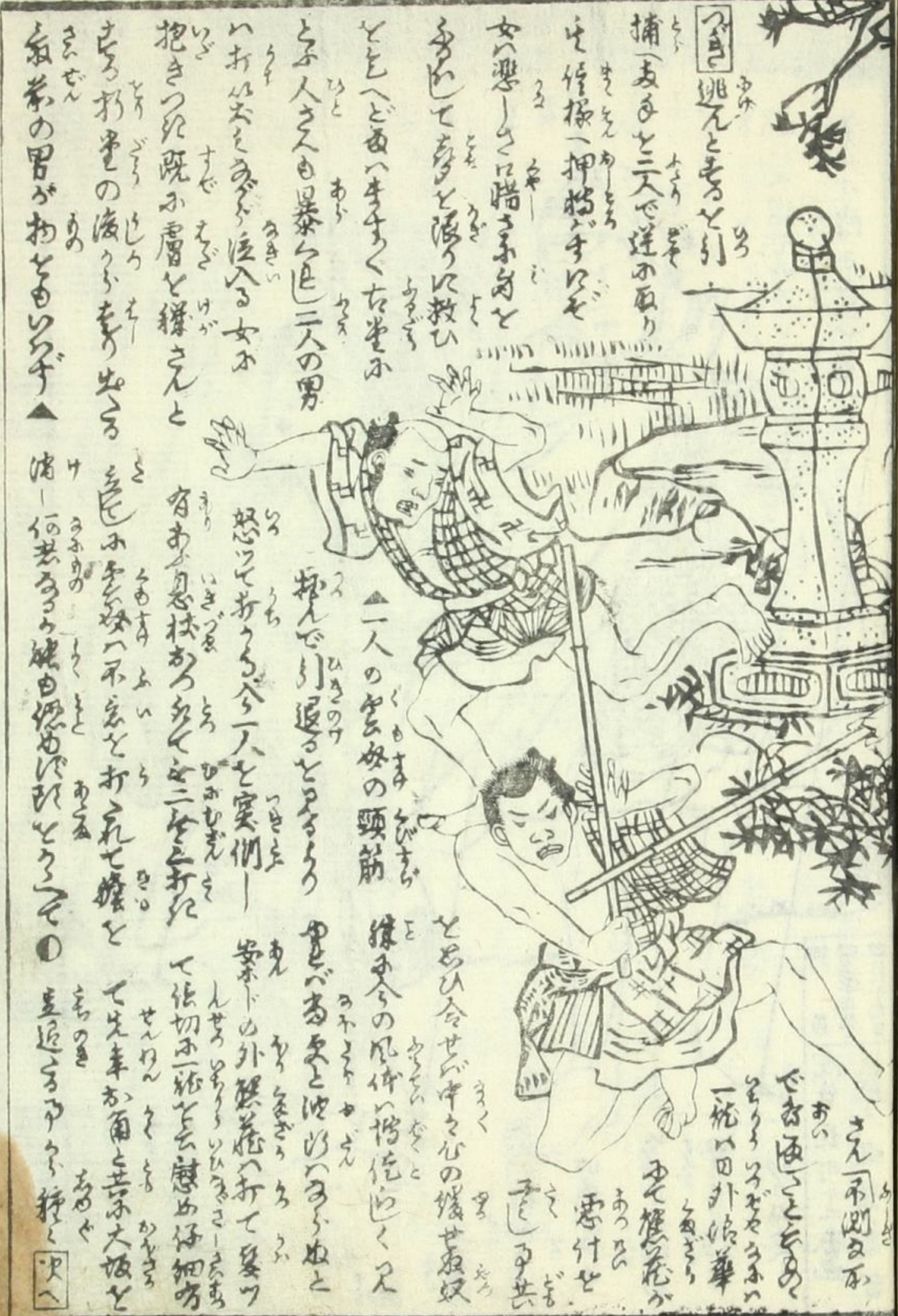
わくつてまき
あまも厭
りそまを
全相油
くひなる
箱書能

波々の飾り
飾りたる事
非へ是せいの
一も丁を挿丸
笑掃ひたる
文久元年跡生
中よの事 して様ゆつと
休むる間もさく考への様は町
を丁用の中村堂のねえにとも
文へのお物お姫お城のねえと
中よおの八重おの娘とつとあ天切
小えま六秋仙のあ作事と浪世の
跡の針も大ありゆくと見おの



考への
おの上達
せしと響る
おるおるはとを
夏の日のおまひくま
今まの時流りたる
むき

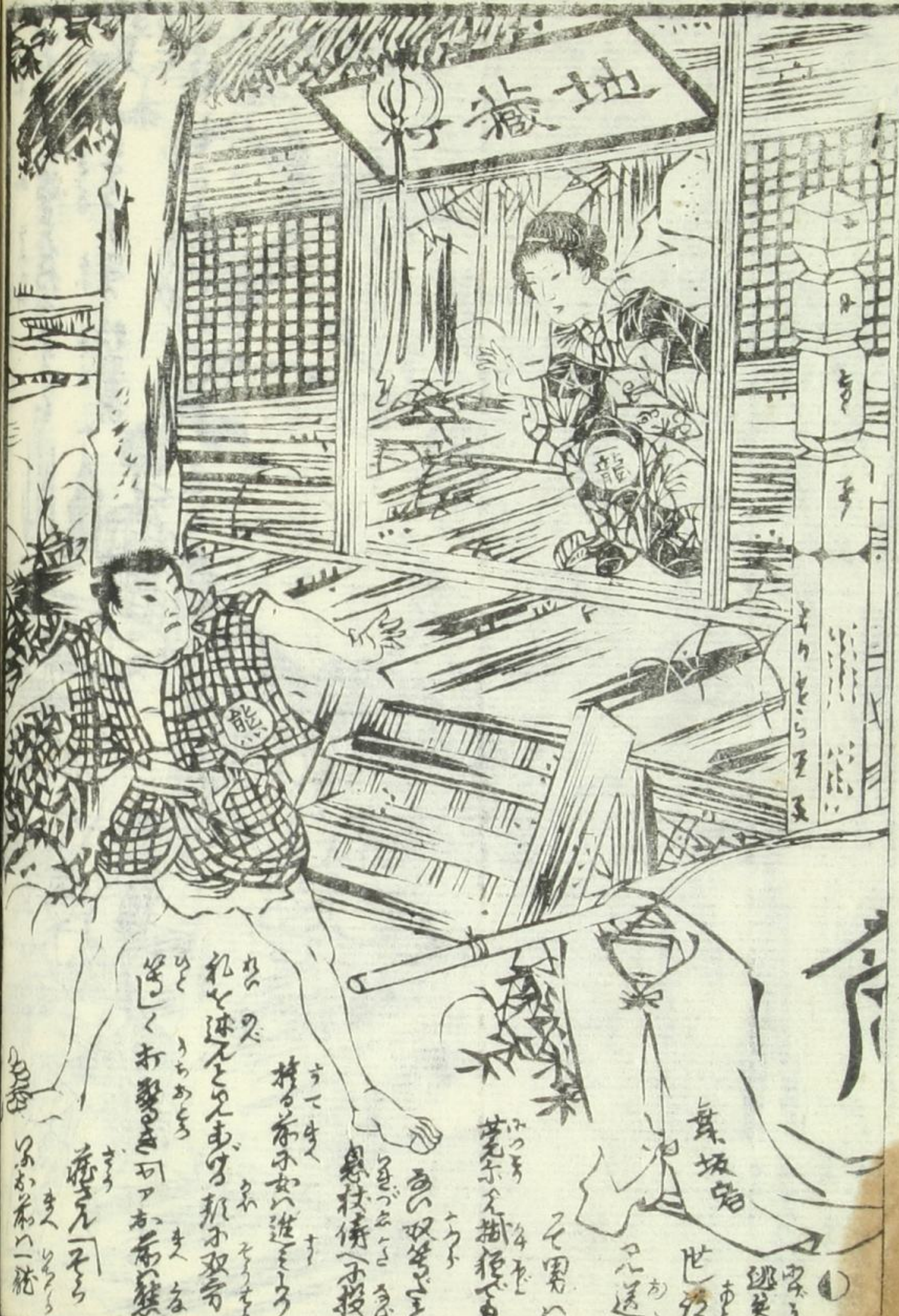




捕(とら)ふと二人で逆(さか)り
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし

一人(ひとり)の女(おんな)の頭(かぶ)筋(すぢ)
 二人(ふたり)の女(おんな)の頭(かぶ)筋(すぢ)
 二人(ふたり)の女(おんな)の頭(かぶ)筋(すぢ)

女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし



地蔵(じざう)
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし

一人(ひとり)の女(おんな)の頭(かぶ)筋(すぢ)
 二人(ふたり)の女(おんな)の頭(かぶ)筋(すぢ)

女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし
 女(おんな)の口(くち)に指(ゆび)さし

三二下

三二下

難世とて探検してお侍

ちく茶湯と後悔世体めて生れと
懺悔一平や日由秀



一統と芳りつ己
が宿へと傍い
慈光が心
おと悪

仔細
い後如何
あや二編の
おと悪

おと悪
おと悪
おと悪

御
明
四年
四月十九日
浅草瓦町十二番地
出版人 綱島亀吉

鳥田一郎梅雨日記

芳川春涛園 三冊
岡本起泉綴 五編

其名高橋 毒婦小傳 東京奇聞 同

同 七編

白葛阿繁顛末 同

同 三編

坂東彦三倭一流 同

同 三編

澤村田之助曙草紙 同

同 五編

御所櫻梅松録 鶴亭秀賀作

二冊袋入
十五編

浅草瓦町十二番地

龜 地本問屋 島鮮堂 綱島亀吉

010190516879

Handwritten Japanese calligraphy in black ink on a blue and white geometric patterned background. The characters are arranged in a vertical column, likely representing a title or a chapter heading. The style is cursive and expressive.

五
策
卷
三
記

三
冊
已
內

